ワード 2013をはじめよう

**ワード 2013が必要とされる理由**

****ワード 2013は、マイクロソフト社が開発した日本語ワープロです。ワード 2013単体でも購入できますが、多くの場合、Office製品として、エクセルやパワーポイントなどのその他のソフトウェアといっしょに購入する場合がほとんどです。また、家電量販店で販売されているほとんどのパソコンには、ワード 2013の含まれたOffice製品が、あらかじめインストールされています。

ワード 2013は、世界中で利用されているワープロであり、ビジネスから個人利用まで、事実上の世界標準と呼べる製品です。現実に、世界中の企業でワード 2013によって作成された企画書や報告書、資料などが利用されているため、ワード 2013がないとビジネスが成立しないといっても過言ではありません。同様にして、表計算ソフトのエクセルやプレゼンソフトのパワーポイントなども、ビジネスに不可欠なソフトウェアとなっています。

**ワード 2013は最新バージョン**

ワードは、これまで何度もバージョンアップを重ねてきました。ワード 2013は、その最新バージョンです。文書作成・編集機能だけでなく、作表・作図機能、文書添削機能、エクセルなどの他のソフトウェアとの連携機能など、数多くの機能を搭載し、セキュリティも非常に高い製品となっています。

ただし、最も基本となる入力・編集機能は、それほど変化していません。このため、旧ワード で習得したスキルは、ワード 2013でもそのまま活用できます。ただし、ワード 2003より前のバージョンを利用していたユーザーは、少し戸惑うかもしれません。ワード 2007から「リボン」という機能が追加され、操作方法が大きく変わったからです。ただし、リボンによる操作に慣れると、以前よりもずっと効率的な作業できるようになります。

**日本語入力はMS-IMEが担当**

ワード 2013を使えば、さまざまな文書を作成できますが、日本語を入力する機能は、MS-IME（エムエスアイエムイー）というソフトウェアを利用します。これは、ワードが誕生して以来、変わっていません。「読み」を入力して漢字仮名交じり文に変換するという操作は、ワード 2013による文書作成の最も基本になる部分なので、ぜひマスターしましょう。キーボードに慣れていない方には、地道な作業になりますが、ここをクリアできれば、ワードの活用範囲が大きく広がります。